徳川慶喜天下之形勢不得止ヲ察、
大政返上将軍職辞退相願候ニ付、断然被
聞食、既往之罪不被為問、列藩之上座
にも可被　仰付之処、豈図哉大坂城江
引取候旨趣、素より詐謀ニ而、去ル三日
麾下之者を引卒し、剰帰国被
仰付候会・桑等を先鋒として、　闕下を
奉犯候勢、現在彼より兵端を開候上ハ慶喜
反状明白、始終奉欺
朝廷候段、大逆無道其罪不可遁、此上ハ於
朝廷御宥恕之道も絶果、不被為得止
御追討被
仰出候、抑兵端既相開候上ハ、速賊徒誅戮、
万民塗炭之苦を被為救度
叡慮ニ付、今般仁和寺宮征討将軍ニ
被任候、付而ハ是迄偸安怠惰ニ打過、或ハ両端ヲ
抱キ、或ハ賊徒ニ従居候者たり共真ニ悔悟
憤発国家之為尽忠之志有之輩ハ
寛大之
思食ニ而御採用可被為在候、尤此御時節ニ至て
不弁大義、賊徒と謀を通し、或ハ潜居為致候者は、
朝敵同様厳刑ニ可被処候間、心得違無之様
可致候事、

慶応四年戊辰正月　　参与

右之通被
仰出訖、弥堅可相守者也

家老中